

時には助けを・・・

中央幼児センター父母と先生の会 会長 長嶋 いづみ

私には、小学校三年生の息子、幼児センターに通わせて頂いている年長の娘と年少の双子の息子がいます。

私が中央幼児センターにお世話になったのは、小学校三年生の長男が年少で入らせて頂いてから現在までです。

長男の時は、幼児センターは同じ年の友達と遊び、集団での生活を学び、色々な事を覚えながら成長していく所と考えていました。ですから、毎日楽しく行つては、笑顔で帰ってくるだけで嬉しかったです。

娘が産まれた時も、長男は楽しくセンターへ行き、私は娘の育児だけだったところで、正直あまり苦労はしませんでした。ところが、三人目にして双子の男の子が産まれ、日中は、私、娘、双子の四人の生活となりました。またミルクの時は楽でしたが、離乳が始まった頃、初めて育児の大変さを知ることになりました。

食の進む双子、止まることなく次から次へと続き、途中で娘に構っていたら、置いてあったご飯はこぼされ、気付けば二人は、体に食べ物も付けたまま歩き、毎回床は食べ物だらけ、それを毎回片付ける事が私にはつらくて、時には泣きながら片付ける事もありました。しかたがないと思つていても、毎回汚されるのが嫌で、食事の時間がすごく嫌だった事を今でも覚えて

います。そんな私に、「双子にはかわいそうかも



中央幼児センター運動会の様子

しれないけれど、働いて幼児センターに預けてもらつたら。」とアドバイスをもらいました。私は、「幼児センターに預かつてもらおう、そして、今の食事の時のつらい気持ちを助けてもらおう。」と思ひ、長男の卒園と同時に娘（年少）、双子一才で入園させていただきました。

最初は、子供達が泣くのではないかと心配に思いましたが、お昼寝もすっかりして、先生方や友達と楽しく過ごしている三人に安心しました。そして、私自身も、子供と少し離れさせていたたくことでつらかった気持ちもなくなり、毎日子供達のセンターでの様子を聞く事が楽しみにになりました。

今では、幼児センターという所は、同じ友達と遊び、集団生活を学び、そして、時には親も助けてくれる所と考えるようになりました。

本当に、幼児センターのおかげで子供達に笑顔を見せ、優しくなれたこと、もし今でも双子を一人で世話をしていたら、きっと今の自分はいなかったと思います。こんな私が、今、父母と先生の会の会長を勤めさせていただきありがたく思っています。幼児センターに感謝の気持ちをこ

「子どもたちの成長のために」

共和中学校 教諭 柳原 健

四月の人事異動で隣の岩内町立岩内第二中学校から赴任となりました。実は、今回の異動で共和中学校には二度目の勤務となります。前回は、平成十年から十八年までの八年間を過ごさせていただきました。その際には、まだ若い自分に対し、諸先輩が「共和中学校は、落ち着いて教科経営ができる。教科指導の基礎をしっかりと身につけて。」とのアドバイスをいただいたことが懐かしく思われます。実際、異動し、楽しく子ども達と活発なやりとりができ、教科指導だけでなく教員としての基礎を築かせていただきました。



中学校入学式の様子

当時を振り返ってみると、教員間で、「どうやって子ども達を育てるか。」についてよく論議しました。その中で、「どう

め、これからも子供達のため、また、いつも子供達に優しく接してくれる先生方のために会長として頑張りたいと思います。そして、私自身、これを機に、子供達と一緒に色々な事を学び成長できたらという思いでいます。どうぞ、これからもよろしくお願ひします。

したら遅くなるだろうか。」「どうしたら自信が持てるだろうか。」ということを考え、その方法を探りました。これができれば、中学校を卒業して、困難な状況におかれても、その中で何とかやっていく力になるのではないかと。

そして、その一つのアプローチとして「部活動で育てる」ことに取り組みました。結果、野球部が初めて全国大会に出場し、その他の部活でも全国、全道で上位入賞という輝かしい成績を残すことが出来ました。当時、私が持っていた卓球部も、女子団体で、全道準優勝まで勝ち進むまでになりました。当時の生徒のその後の姿を見ると、先生方と気持ちを一つにして取り組んだことに間違いはなかったと感じています。

今、まさに、当時の生徒が親となり、子育てに奮闘中です。紆余曲折もあるでしょうが、きっと、すばらしい共和の伝統を受け継いだ子どもたちを育ててくれるものと信じています。

中学校の前には、今も「誠実」の碑があり、日々、私たちを見守ってくれています。当時も今も、この共和には、この「誠実」の精神が息づいています。誠実に物事を考え、必要なことを必要に応じて、責任をもって最後までやり抜く生徒と共に、自分

自身もまだまだ何かやれることはあるだろうと思っています。年齢と共に、身体は確かに動かないところが出てきましたが、

よさこいから見えたもの

東陽小学校 教諭 平井 弥真人

本年度、北辰小学校から東陽小学校に赴任することになり、同じ町内とは言え色々な点で不安がありました。その中の一つが、どんなタイプの子どもがいるのかということでした。赴任して気付いたのは、挨拶の声が飛び交う学校だな、何に取り組むのも一生懸命な子が多いなということでした。

五月に入り、運動会の練習シーズン到来。私は趣味でYOSAKOIをやっていることもあり、今まで勤務した三校でYOSAKOIの指導を行ってきました。東陽小学校のYOSAKOIを初めて指導する日、最初に去年の踊りを見せてもらうことになりました。東陽では、四年生から六年生までがYOSAKOIを踊ります。曲は『南中ソーラン』ですが、編曲してあり、約二倍の長さになっています。大人の私が踊っても一曲で体力が消耗し、足が痛くなるほど大変な踊りです。なんとその大変な曲を東陽小学校の子どもたちは踊っていたのです。これには私自身驚き、また感心しました。

練習を開始して一週間。初めての四年生も踊れるようになり、全体で合わせたり、振りの精度を高めたりする練習に突入しました。今年の目標『HOT』「H」低くO」大きく、T」止める」この頭文字をとって、『HOT』熱い演舞をしよう！と最初に提示しました。この頃になると相当筋肉痛がきていたはず。しかし、東陽小学校の子どもたちは、『疲れた』や『もうい

明るく、前に進んで行きたいと考えています。みなさんの温かなご理解とご協力を頂ければ幸いです。

やだ』とは言わないのです。忍耐強く一生懸命練習に取り組みます。



東陽小学校運動会の様子

踊りの途中にある掛け声を出すのも全力です。「どっこいしょどっこいしょ！ソーランソーラン」後半になると体は悲鳴を上げるほど痛いです。ですが、みんな大きな声と『HOT』の目標に向かって一生懸命踊ります。一曲終わると滝のような汗が流れ、疲労困ぱいの子どもたち。大きな声・大きくキレの良い踊り・低くかっこ良い姿勢を意識して踊った結果です。この姿こそ、東陽小学校の挨拶や何事にも一生懸命に取り組み力につながっているのだと実感した瞬間でした。

今後の学級経営においても、子どもたちみんなの良いところを伸ばしていけるよ

う、私自身も元気の良い挨拶を心掛け、何事にも一生懸命取り組む姿勢を大切にし

ていきたいと思えます。

「あえて与えない」ということ

共和高等学校 養護教諭 森川 綾乃

養護教諭として、また社会人としてのスタートを切った共和町での生活も4年目を迎えました。夏風の心地よさと雪風の厳しさを体験し、私の中で共和町民としての自覚が心身共に芽生え始めているようです。

養護教諭として生徒との関わり方がこの四年間で大きく変わりました。保健室としての機能の利点と難点を生徒の様子から考え、生徒の力が最も発揮できるように支援するにはどのように関わっていくべきかの焦点を見出したからです。

着任当初の生徒への関わり方は、生徒の悩みや相談をできるだけ聞き、心の整理が出来るよう支援することでした。保健室を訪れる生徒の数は多く、思い思いに保健室を利用していました。その中でも、学級になかなか馴染めない生徒にとつて保健室は数少ない居場所となっていたようです。

しかし、生徒が帰属するべき場所は学級です。行事の時に同級生との関わりの希薄さに困るのは生徒本人です。日々の人間関係の構築において、学級で過ごす時間を削って保健室を利用していることの代償は自分で取り返さなければなりません。その現状を受け、ここ数年で生徒への関わり方を見直しました。保健室に生徒が長居しないよう状況を見極め教室に帰るよう指導する方向に変え、養護教諭自身も保健室に常駐するのではなく、職員室で勤務するよう環境も併せて変えました。保健室の常連であった生徒には申し訳ないような思いもありましたが、居心地の良いすぎる保健

室という空間を制限しました。

取組の当初、養護教諭に相談していた生徒は心の整理が出来るのか、学級に馴染めなかった生徒は孤立してしまっていないかなど心配でした。しかし、生徒は他の相談先を自分で開拓し、交友関係を広げているように見受けられました。生徒のたくましさや適応能力の片鱗を垣間見たことで、保健室の方向性を定めることが出来ました。

保健室での生徒の対応では、高校生の心の機微に関わる機会が大変多くあります。怒りや悲しみ、不安や焦りといった素直な思いを保健室で吐露する生徒の姿は、殻の中でもがきながらチヨウになる準備をしているサナギの姿に重なるものがあります。与えられた結論に従うだけにとどまらず、自分の思いを表現し自分の足で行動して結論にたどり着ける力を身につけ、この学舎を巣立つてくれることを切に願っています。



共和高校祭の様子